

7年祝・15年祝報告

智社会福祉専門学校創立50周年記念事業の1つのイベントとして、去る平成26年3月21日に卒業式と並行して「7年祝・15年祝」の祝典を執り行いました。この「7年祝・15年祝」は創立50周年記念事業の一環として新たに企画したもので、卒業して7年あるいは15年を経たことを皆でお祝いしましょう、そして母校で再会しようという思いを意図して本校が主催する公式の式典です。

当日は10号館講堂での荘厳な卒業式、記念式典、懇親会と続き、高祖上智学院理事長と社専ソフィア会会長からお祝いの言葉をいただきました。また、創立50周年ということから本校の第一期生を来賓としてお招きいたしました。代表者の方のスピーチは現場実践者の熱い思いに、胸を打つような内容でした。また、懇親会では、卒業生、理事長、社専ソフィア会会長、高山校長や教員が集い、入学以来苦楽をともにした日々を振り返りつつしばしの余韻に浸りました。

なお、7年祝・15年祝は卒業生の方々のつながりを保つためにホームカミングデーとしての一助となると思われまふ。下記のコメントにあるとおり、教員にとっても卒業生からのフィードバックもいただき、またつながりの意義の大きさを痛感させられました。今年もこの企画を継続したいと思います。7年祝は1999年卒業生、15年祝2007年卒業生の皆様です。多くの方の参加をお待ちしております。

またお二人から素晴らしいコメントをいただいております。ここにご紹介いたします。

陳 麗婷

(写真1) 第一期卒業生富田さんに高山校長から花束の贈呈



(写真2) 懇親会の和気藹々とした光景。



「7年・15年祝記念式典・懇親会に参加して」

第一期卒業生 富田 美智子

昨年、創立50周年記念式典及び懇親会に参加し、今年の3月にはタイトルの式典に参加させて頂きました。懐かしいクルトゥルハイムでの記念ミサから始まり、講堂での荘厳な卒業式、記念式典、懇親会と時は流れました。第一期生の私にとりましては、創立当初の少人数で全てが仮住まいだった事が思いだされ終始感激しきりでした。創立年は「東京オリンピック」の年であり、連日夜空に輝く聖火は社専生を未来への展望へと後押ししてくれていたように思います。懇親会では上智学院高祖理事長先生をはじめ、高山校長、三浦ソフィア会会長、卒業生、在校生、教員の皆様の和やかな挨拶や懇談があり、7年・15年の卒業祝いに続き、私にも特別にお祝いの花束を頂きました。

天国のハイドリッヒ神父様、私は現在、児童養護施設の園長です。社専の卒業生として誇りを持って過ごしております。

「社専＝無敵の社会資源」

社会福祉士・児童指導員科卒業生 織田 鉄也

7年祝の卒業生代表として登壇させて頂き、ありがとうございました。当日は緊張しましたが、改めて社専での日々を振り返る良い機会になりました。

現在は相談員として、悩みを抱えた来談者と真剣に向き合い続ける日々を送っています。来談者の答えの见えない問いに応え、暗い未来に一筋の光を見つけ出していく、そんな仕事です。そのとき、いつも胸の内のどこかに、社専在学中、夕過ぎの教室で授業を受け、校舎の片隅でたわいもないおしゃべりに興じていた当時の自分自身があります。その自分が今に連なっていて、たくさんの先輩・同輩・後輩にそっと支えてもらっているような、そんな心持ちになるのです。

社専では、年齢問わず様々な仲間に出会いました。それぞれが日中、家庭や仕事などを抱えながら、それぞれの理由から福祉の道を志して学びに来ている姿に、たくさんの刺激を受けました。そして国家試験を経て、それぞれの進路を見つけていく一。私にとってそれは「活きた学びの場」そのものでした。そんな出会いは今も生まれ、仲間は増え続けているのです。そして、それぞれが福祉の道の頼もしい道標になっていくのだと思います。私たちは、そういう「繋がり」のもとにいるのだと思うのです。

上智社専。つまりは私たち皆。それは「無敵の社会資源」なんじゃないかと思っています。